

柘植地域

まちづくりだより

第300号

発行

柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)



柘植地域俳句コーナー
初雪の

すぐに晴れ間や
峡の村
石河 宏子

発行日

2024(令和六年)一月一日(月)
元旦

新年の御挨拶

柘植地域まちづくり協議会
いがまち3地域まちづくり協議会

会長 宮田 隆司



令和6年度の初春を柘植地域の皆様と共に迎えることを心よりお

慶びを申し上げます。

昨年4月1日から「柘植地域まちづくり協議会」今後の方針と題して、内容等をお示しさせて頂いたところ、ご理解賜り一つひとつのテーマに着手する事が出来、またご支援を頂きました事に対して心から感謝申し上げます。目指している成果(形や数値)にはまだまだ程遠いものがありますが、一歩一歩着実に進めていく所存であります。さて、長く新型コロナウイルス感染症に

悩まされましたが、ワクチン接種の拡大や治療薬の開発などで、政府の諸規制も緩和され、以前に比べて社会全体が活気づいて来た年でありました。

この様に、社会経済活動の正常化が進みつつある中で、緩やかな持ち直しが続いています。その一方で、世界的なエネルギー食料価格の高騰や欧米各国の金融引締め等による世界的な景気後退懸念など国の経済を取り巻く環境には厳しさが増して来てい

るように思われます。私達の身近なところでは、新たに取組んでいかなければならない課題もあります。

【学校関係】では、①地域の実情を踏まえた教育環境の改善と充実を目的として、伊賀市学校構想検討に入っていく。②短大や大学への進学率は、2022年5月時点で83.8%でした。しかし、ひとり親世帯調査では、2021年11月時点で65.3%に留まっています。

【交通関係】では、①JR関西本線の利用促進に向けて、来秋を目前に、名古屋市内と奈良県内を直通で結ぶ電車の実証運行を目指す運びとなった。名古屋から大阪に行く際も、新幹線を使わずに関西本線を使う

可能性があるとの事で、柘植駅周辺にも新たな期待とチャンスが巡って来そうである。②地域公共交通活性化再生法により、人口減少などに直面する公共交通の再構築改正法が施行されました。その為、日本では今のところ禁止されていますが、ライドシェア(自家用車を使って有償で客を運ぶサービス)なる制度も考えられるのではないかと。

【農産物】では、猛暑で高温障害が生じ、一等米比率が全国で59%、三重県では32%となり今後は、人間の生活も含めてこれらの環境対応に迫られそうです。いずれも人口減少が大きな要因とされますが、皆様のお知恵をお借りして取組んでいかなければならない重要な問題であります。一方では、面白い話題も誕生しました。

【SHINDO YARDS】オープン

いがまちに出会いの広場が誕生したこと。(本と出会う。情報と出会う。出会いが生まれる)今後、これらの施設がもっている機能を活用して皆様にとって利便性の高い居心地のよい広場としてください。

「考えなければならぬことが多い、多すぎる。」もしかしたら、住人にとって《今

がチャンス」なのかも知れません。動いて伸びる「辰」を象徴する、辰年にふさわしく、皆様と共に地域の発展に向けて邁進して参る所存で御座います。今年一年の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。〈令和六年 元旦〉

新年のご挨拶

伊賀市長 岡本 栄



あけましておめでとうございます。柘植地域の皆さんに於かれましては、健やかに新春をお迎えの事と心からお慶び申し上げます。旧年中は元より、日頃から市政運営に格別のご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

この3年余り、暮らしや経済に影響を及ぼしていた新型コロナウイルスも感染症法上の位置付けが、「2類」から「5類」へ移行されました。一部の報道では第9波の

心配の声もありますが、全国各地のイベントや観光地では賑わいが戻りつつあります。社会全体がコロナ禍前の賑わい、経済回復を取り戻そうとする一方で、国際情勢の緊迫化や、原油・原材料価格の高騰に拠る物価上昇が課題となっています。

こうしたことから、伊賀市では独自の経済対策等を行っていますが、市民生活や地域経済には厳しい状況が続いています。

この為、国の交付金等を活用し、物価やエネルギー価格高騰に対する子育て支援や生活者・事業者等への支援を行うべく、「コロナの先の伊賀市づくり」の中心に据えている「こども・くらし・にぎわい」の三本柱を軸に今年も推進していきます。

『こども』では、子育て支援についてこれ迄からも「伊賀流未来応援の術」として、妊娠・出産・子育てに関する様々な事業を推進し、「すべての子どもが健やかに、誇りをもって成長することができるまち伊賀市」の実現に向け、様々な施策を図っています。

子どもと子育て家庭への支援体制については、虐待やヤングケアラーへの対応も担うことも未来課の「こども家庭総合支援拠点」と、健康推進課の「子育て世代包括支援センター」を中心として相談支援を行ってきました。4月からは更に連携を強化し途切れない個別支援等を行う為、子育て支援サービスの利用紹介も含め、すべての妊産婦や子育て世帯、子どもへの包括的な

相談支援等が出来る組織として、「こども家庭センター」を設置すべく準備を進めているところです。

『くらし』では、JR関西本線について、昨秋開催された「関西本線活性化利用促進三重県会議」に於いて、本年秋季に名古屋から奈良間を関西本線経由で直通する列車の実証運行を目指していく案が示されました。今後、実現に向けて関係各所との調整や、計画策定など、関西本線の利用促進に向けた取り組みについて検討を進めています。

『にぎわい』では、令和6(2024)年が俳聖松尾芭蕉の生誕380年となる記念の年です。これを機に芭蕉翁のふるさと「伊賀市」をアピールし、全国的な認知度をさらに向上させたいと思います。また、市民の皆さんが改めて芭蕉さんの日本文化への功績を知り、その今日的意義にも着目し、その顕彰を受け継いでいく取組みにしたいと考えています。

柘植地域まちづくり協議会の皆さんには地域の活性化・賑わい創出事業等々、種々な活動・取り組みに對しまして、深い敬意を表すると共に更なる活動・事業展開される事を期待しております。

結びに貴協議会の益々の発展と柘植地域の皆さんのご健勝、ご多幸を祈念致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。



【第300号記念】特集

『柘植地域まちづくりだより』創刊300号を記念致しまして歴代の編集長お二方に御寄稿戴きました。

「まちづくりだより」は貴重な記録！

西田 方計



私は、創刊46号、更に、118号の268

編集発行に関わりました。このたび300号記念号がこうして発行されたことを心からうれしく思います。

「いつも楽しみにしているよ」、「まち協でやっていることがよくわかるわ」との声をよくいただきました。本当にうれしい言葉でした。第5号からは現在に続く「縦書き3段組スタイル」になりました。縦書きはひと手間要りますが、どこか品格を漂わせていると思っています。

「柘植地域まちづくりだより」の創刊は「伊賀市誕生前夜」の平成16年3月31日です。

人口1万人の町から10万人都市になると、柘植地域は端っこの一つになります。

「どう転んでも上野中心の伊賀市になる。だからこそ、この自治協組織の存在が、周辺部にとっての住民自治のとりでなのだ」との危機感がありました。

しかし、そのことがあまねく住民に伝わっているわけではありません。まち協の存在意義を住民が理解し、関心を向け、活動に参画するレベルにまでいかに引き上げるか。そのためには、「こまめに情報発信する以外にない」と考え、「まちづくりだより」を作ってきました。

当初、広報編集委員会も設置しましたが、理想と現実とはかみ合わず、結局、事務局で編集するのが精いっぱいでした。「時代に乗り遅れない柘植地域を！」いつもそう思っていました。各戸配布に加え、関係機関や中学生にも広く配っているのはそうした目的があるからです。

300号を発行した自治協はまだ少ないと思います。それだけ先輩諸氏の熱い活動が豊富にあり記事ネタが多かったので発行できたとおもいます。これからも毎号毎号の積み重ねが記録となっていくと思います。その記録は私たち柘植地域の財産となることはまちがいありません。また私も機会があれば編集にかかわりたいと思っています。

『第300号』記念号に寄せて

「まちづくりだより」編集の思い出

田中 重之



私が「まちづくりだより」を担当したのは、第47号（平成19年6月15日発行）から第17号（平成25年3月15日発行）までの6年間です。「たより」編集については、新聞は読んでもらってなんぼですから、読みやすく親しみがもてることを念頭におきました。体裁は西田さんが作ってくれたので、私は見出しと編集後記に重きを置きました。

私が担当している間に100号の発行を迎えました。この間は、つげまちづくり協議会の設立・草創期に当たり、柘植の町全体が「住民自治」という未知の課題に取り組んできました。その様子が「まちづくりだより」に書かれていますので、まとまったものとして残したいと思い、1号から100号までの「縮刷版」を作成発行しました。

私がこのたよりの発行を引き継いだとき、まち協の事務局は柘植公民館（今は閉鎖）の二階にありました。私はこの時、まち協の書記で事務局長でした。

平成22(2010)年4月1日、新しくできた市民センターに事務局が移転し、これに伴って二人の嘱託員(センター長と事務職員)が常駐することになりました。センター長の岡島盛男さんはまち協の事務局長でしたが、新聞づくりには不慣れなため、私が事務局次長の役職をもらい引き続きたよりの発行に当たりました。

この間、記憶に残る記事で主なものを拾ってみると、※柘植駅から旗山を経てゾロゾロ峠に至る登山道案内標識設置と柘植駅前にハイキング総合案内板の建設 ※新しい葱華輦で総勢53人の第6回「斎王群行」開催 ※20年度「みえの防災大賞」「あしたのまちくらしづくり活動賞」全国表彰・「防災まちづくり大賞」全国表彰 ※市民センターにピアノが寄贈され「市民センターオープンニングふれあいコンサート」が参加者200名の大盛況 ※「大規模災害時避難所初動マニュアル」「防災(減災)ハンドブック」「各戸配布保存版」完成等々様々な出来事が去来する次第です。

クリスマス

コンサート 2023



教育文化部会

12月16日(土)午後開催。今回は、①オカリナ愛好会などでしこIGA ②グリーンリープス ③ マジヨンナ「マジックショー」の3部構成で



クリスマスに因んだ演目を披露、盛況でした。

★☆☆ 編集後記 ☆☆☆

山口 青邨 せいそん

年新たな心新たに つつしみて
新たな年を迎え心機一転此の一年を如何に過ごすべきかと思いを巡らす心境を謹「慎」みてという言葉で表現。威儀を正し真摯に冷静に今の自分を見つめ、より確かな一歩を踏み出そうという気概が読み取れます。
【山口青邨】大正5(1916)年、東京帝国大学卒・鉱山学者・俳人・岩手県盛岡市出身

▼戊辰戦争(86年) 日露戦争(90年)が辰年に勃発。日露戦争から120年目の今年(2024年)「辰年」は政変の年とも云われ、戦後6回あった「辰年」で、3回「総選挙」が行われ「ロッキード事件」・「リクルート事件」といった時の政権が転覆した一大汚職事件も全て「辰年」に発覚しています・・・

▼「柘植地域まちづくり協議会」へ設立に多大なる御尽力戴いた初代・岡島久司会長の発足が平成16(2004)年2月、翌3月31日に「柘植地域まちづくりだより」第1号が創刊され(同年11月1日・伊賀市誕生)以来20年。岡島久司会長以下数多の先人に依り「まち協」が存続。「まちづくりだより」も連綿と発行し続け今般偶然にも本元旦号が300号記念号と成った次第です。

小生は26号から担当させて戴いておりますが御愛読賜れば幸甚で御座います。(清水)